

令和6年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

| | 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|--------------|--|--|--|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | 主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を進めるとともに、地域に開かれた教育課程を編成する。 | <p>①個別最適な学びと協働的な学びについて研究を進める中で、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を実践する。</p> <p>②校内での部門や学部を超えた交流を行ったり、地域資源の活用や近隣の学校等との交流及び共同学習を継続・発展させたりする。</p> | <p>①－1 研究を通し、個別最適な学びや協働的な学びを支える授業システムについて検討する。</p> <p>①－2 日々の授業実践を一人一回は発信し、複数の目で授業観察することで実態把握を深め、自己の課題解決や授業力の向上に役立てる。</p> <p>②学部間で協力し、校内での交流を計画的に行う。地域資源の活用や交流及び共同学習について、地域や地域の学校等へ働きかけ、課題を整理する。</p> | <p>①－1 1年目の研究として個別最適な学びや協働的な学びについて教職員全体で検討し、検討したことを実践に結び付けることができたか。</p> <p>①－2 一人一授業を積極的に発信するとともに、実態把握を深め、自己の授業改善に役立つことができたか。</p> <p>②校内での交流を実施することができたか。また地域資源の活用や地域の学校等との効果的な交流について課題を整理できたか。</p> |
| 2 | 児童・生徒指導・支援 | 児童・生徒のニーズに応じて指導できるようにICT機器の活用等を含め、校内指導体制を整備し、指導・支援を行う。 | <p>①児童・生徒のニーズに応じて、チームで組織的・継続的な支援ができるようにする。</p> <p>②児童・生徒のニーズに応じて、タブレット等のICT機器の活用を進め、教育内容の充実を図る。</p> | <p>①ケース会を通して、専門職など校内関係者や関係機関と連携をして、実態把握と課題を整理し、支援策を検討する。</p> <p>②ICT機器に関する教員の知識技能を向上させるための研修会を行ったり、活用例を共有したりする。</p> | <p>①ケース会を実施し、チームで情報共有を行い、児童・生徒の指導・支援に反映させることができたか。</p> <p>②ICT機器に関する研修会を実施できたか。タブレット等、ICT機器の活用を進めることができたか。</p> |
| 3 | 進路指導・支援 | 保護者や関係機関と連携し、児童・生徒の将来に向けての進路指導・支援を充実させる。 | <p>①小学部の段階から教員間で共通認識をもって進路指導・支援を行う。</p> <p>②保護者の進路説明会や見学会の参加者数を増やすと共に、保護者への情報提供を十分に行う。</p> | <p>①進路に関する理解を深める研修を行ったり、授業や進路面談など進路コーディネーターと協働して児童・生徒の進路指導を行う機会を増やしたりする。</p> <p>②保護者が参加しやすいように進路説明会等の日程調整を行ったり、事業所見学の案内を計画的に行ったりする。保護者への情報提供の内容を検討する。</p> | <p>①進路に関する理解を深め、児童・生徒の指導を行うことができたか。進路コーディネーターと連携して進路に関する授業を行ったり、進路面談の方法等を検討したりすることができたか。</p> <p>②説明会、見学会の参加者数を増やすことができたか。また、進路ガイドブック等を活用して、情報を提供することができたか。</p> |

| | 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|--------------|--|--|--|--|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 4 | 地域等との協働 | 共生社会の実現のためにセンター的機能の活用促進を図るとともに、地域と連携した活動を推進する。 | <p>①学部コーディネーターを活用し、地域のセンター的機能としての役割を果たす。</p> <p>②学校の様子を発信したり、協働で活動したりすることで、地域の理解を深められるようになる。</p> | <p>①センター的機能について地域の学校に周知すると共に、学部コーディネーターを活用して巡回相談等、地域の学校等への支援を積極的に行う。</p> <p>②ホームページでの情報発信の仕方を整理し、保護者や地域にとって必要な内容が迅速に伝わるようにする。また、学校施設開放の整備やボランティア活動の促進を行い、学校への理解に繋がる機会を設定する。</p> | <p>①センター的機能について周知することができたか。また地域の学校等がセンター的機能を活用することができたか。</p> <p>②ホームページで必要な内容を迅速に伝えることができたか。また、学校施設開放やボランティア活動を進め、地域の方が学校を知る機会を設けることができたか。</p> |
| 5 | 学校管理 学校運営 | 児童・生徒の安心安全な教育環境を整備し、信頼される学校づくりを行う。 | <p>①児童・生徒にとって、安心安全な学校生活に繋げられるようにマニュアルを整備し、活用できるようにする。</p> <p>②同僚性を發揮し、風通しのよい職場づくりを促進することで事故不祥事の防止の徹底を図る。</p> <p>③児童・生徒の人権を尊重し、安心安全で居心地のよい学校生活になるようになる。</p> | <p>①各種マニュアルを見直し、適宜改善する。また、マニュアルについての教職員の共通理解を図る。</p> <p>②定期的に不祥事防止会議を行い、教員の意識づけを図る。ヒヤリハット報告やアクシデント報告について教員間の情報共有を徹底する。</p> <p>③人権尊重を推進する方法として、学校全体で「さん」付け呼称と丁寧な関わりを確実に行うことができたか。</p> | <p>①マニュアルを見直し、必要なところを改善することができたか。マニュアルに基づき、児童・生徒の指導に行なうことができたか。</p> <p>②定期的に不祥事防止会議を実施するとともに、ヒヤリハット報告やアクシデント報告への取組を通して、事故不祥事を起こすことなく学校運営ができたか。</p> <p>③学校全体で「さん」付け呼称と丁寧な関わりを確実に行なうことができたか。</p> |